



共生地域づくりプロジェクト通信



● 亘理町吉田西部地区

「共生地域づくりプロジェクト通信」を創刊します。

東北福祉大学の森ゼミが取り組む「共生地域づくりプロジェクト」は、中山間地域の関係人口の創出を目指して、大学生と農業、地域づくり、多世代が交流するためのプラットフォームづくりと運営を行っていきます。本プロジェクトが、TOHOKU/宮城の地域課題の解決に向け、新たな結びつきを創造するイノベーションを生み出していく契機になることを目指します。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

\\ 亘理の美味しい完熟りんごを育てている農家さんについてご紹介! //

「海に見える果樹園」片平果樹園さん

今回は、亘理町吉田地区で果樹園を営んでいらっしゃる片平果樹園さんにお邪魔させていただき、実際に活動させてもらいながらりんご農家について色々教えていただきました。

亘理町はいちごが有名ですが、県内有数のりんごの産地でもあり、亘理町のは「完熟していること」が最大の特徴です。霜が降りるのが遅い気候を活かし、樹にりんごを成らせたままゆっくりと熟成することができるため他地域と比べると1カ月近く収穫時期が遅く、甘味を蓄えた蜜入り



の完熟りんごができあがるそうです。

片平果樹園さんでは、果実の食味を重視しているため化学肥料は控えめに有機肥料を中心にりんごを育てているそうです。また、樹上で完熟してからの収穫を目指しているため、一つ一つの果実に触れながら熟度を確認し丁寧に収穫するなど沢山の愛情を込めながら育ていらっしやるそうです。



そんなりんごに魅了される人は多く、消費者の方への直接販売などもされています。

実際に農家さんのお仕事を体験させてもらいました!

収穫前の11月下旬にお邪魔させていただき、りんごの木の葉摘みとりんごの球回し、木から地面に落ちてしまったりんごの回収作業を行わせてもらいました。

りんご栽培における葉摘みは、高品質なりんごを育てるための重要な技術の一つです。この作業は、りんごの木から不要な葉を取り除くことにより、果実の成長環境を改善するために行われます。葉摘みの主な目的は、果実への日光の当たり方を最適化し、風通しを良くすることにあります。一つ目は、効率良く光合成ができることです。りんごは木の全体で光合成を行うのですが、全ての葉が同じように効率良く光合成を行えるわけではありません。葉摘みによって適度に葉を減らし、残る葉に十分な日光が当たるようにすることで、全体としての光合成の効率を高めることができます。二つ目は、果実への日光の確保です。りんごの品質を決定づける要素の一つに、日光の直接的な当たり方があります。日光が果実に直接的に当たることで、りんごの実の色づきがよくなり、糖度が増すとされています。果実に直接日光が当たる面積を増やすことは、品質の良いりんごを育てる上で非常に重要なポイントです。三つ目は、病害虫の予防です。過密に生えた葉は病害虫が発生しやすい環境を作り出します。特に、風通しが悪く、湿度が高い状態は、多くの病原菌や害虫にとって理想的な繁殖条件となります。そのため葉摘みによって葉の密度を適正に保つことで、病害虫の発生リスクを減らし、健康なりんごの木を維持することができます。ただし、葉摘みは適切な時期と方法で行う必要があります。過度な葉の除去はりんごの木にストレスを与え、反対に品質を落とす原因にもなるため、慎重に行う必要があります。実際に、葉を摘む時も木にダメージを与えないようにバランスを気にしながら葉摘みを行いました。

りんごの球回しは、りんごを軽く回転させながら樹上で成長しているりんごの位置を微調整する作業です。球回しには多くの利点があります。一つ目は、りんごがより理想的な形に成長することです。自然成長の過程でりんごは枝や他のりんごに押されて変形することがありますが、定期的に位置を微調整することで変形してしまう可能性を軽減することができます。二つ目は、収穫作業の効率が上がることです。形や熟度が均一に成長したりんごは収穫の

判断がしやすく収穫作業にかかる時間と負担を軽減することができるため、作業の効率化を図ることができ、多くのお客様に美味しいりんごをお届けすることができています。三つ目は、より品質の高いりんごを作れるということです。球回しをすることによって高品質なりんごを育てることができ美しい見た目だけでなく、均一な糖度を含んだりんごが出来上がります。りんごの球回しの作業は、病害虫予防や収穫効率の向上、品質の向上など、りんご栽培における多くの利点をもたらします。そのため、りんごを栽培するにあたって欠かせない作業の一つとなっているそうです。

実際にりんごの球回しを体験させてもらった時は、りんごの実を回しすぎて枝から実が取れてしまわないかと、とてもヒヤヒヤしました。簡単そうにも見える作業ですが、一つ一つのりんごに合った角度や場所を探して回すのはとても難しかったです。

最後に木から落ちたりんごの回収作業を行いました。今年度は例年より多くのりんごが木から落ちてしまったそうです。木から落ちてしまったりんごの中には傷がついて腐ってしまい廃棄するしかない物からあまり目立った傷がなくまだ食べられそうな物まで様々な物がありました。木から落ちてしまったりんごのなかからあまり傷の目立たない物は、ジャムなどに加工されて消費されることでした。落ちたりんごのなかには傷のないりんごも多くあることが分かり、驚いたのと同時に美味しいりんごをお客様へお届けすることの大変さを実感しました。



片平さんへインタビュー！

現地の農家さんの悩みや現状について片平さんに色々インタビューさせていただきました。

Q. どの様にりんごを販売していますか？

A. 片平果樹園では主に藤りんごの栽培を行っています。

そのりんごは市場に出すことなく現地に来てくださったお客様に直接販売するようにしています。この販売方法は、周りの果樹園さんでも多用されている販売方法です。この販売方法が多い理由は、顔の見えるお客様に販売することができるため私達生産者側も安心して販売することが出来るし、直接感想などを耳にすることができ、繋がりが生まれ関係を深められるのがとても嬉しいからです。



Q. 農家を経営していく上で大変なことや課題はありますか？

A. 年々若者の農業に対する関心が薄れ、後継者がとても少なくなっていることですね。お客様から「農家を辞めないで」と言っていただけでも多いので、若い世代の人達にもっと農家について興味を持ってもらえればと思っています。農産物の加工方法を中心に学んでいくことも農家になる第一歩なのではないかと思っています。

新たに農業を始めようとすると思えば必ず壁にぶつかり悩むことがあると思います。その時に助けてくれる環境が無ければ農業を続けることは難しいと感じます。そのため、若者が安心して農業を行えるような環境や制度を整えることも必要なのかなと思います。



Q. 果樹園を営む上で片平さんが最近悩んでいることはありますか？

A. りんごの剪定作業の人員確保が年々難しくなっていることです。

農家の担い手不足や高齢化がどんどん深刻になってきていると感じますね。

実際に片平果樹園さんの農園で活動させてもらったり、質問をさせてもらったことで、農家として働く上で楽しいことや大変なことなど様々な一面があることを知ることが出来ました。

農家さんの担い手不足や高齢化は年々深刻化してきていることを強く実感したので、私達大学生が率先して農業の関係人口を生み出せるようにこれからも現地活動など様々な取り組みを行っていきたくと思いました。

東北福祉大学森ゼミ 農業アカウント
Instagram➡アカウント名：minougyou
片平果樹園さん
〒989-2331 宮城県亶理郡亶理町吉田字作田56
TEL/FAX：0223-34-1482

記憶に残った言葉たち

「おやつタイム」

片平さんの農業のモットーは、「ラクして楽しむ」。長く農業を続けるために、楽しみながら仕事ができるように考えているそうです。中でも「おやつタイム」は象徴的な取り組みだと感じました。「おやつタイム」とは、農作業の合間に一緒におやつを食べながら休憩する時間です。かつて話題になったカーリング女子日本代表の「もぐもぐタイム」を思い出していただくとイメージしやすいかもしれません。おいしいものをもぐもぐと口にしてリラックスした状態でコミュニケーションをとることで、自然と会話も弾み、仲を深めたり、その後の仕事の連携が良好になったりします。食べるものは一緒に育てているくだものはもちろん、地元のパートさんが作ってくれたケーキや漬物など地域色がでるようで、おやつそのものからも地域の文化を知るきっかけになりそうです。「おやつタイム」に注目する私たちに、「休憩時間にみんなでおやつを食べるなんて、昔から当たり前前にやっていることですよ」と片平さんは笑います。しかし、こういった「昔から当たり前前にやっていること」の中にこそ、外からは分からない農業のやりがいや楽しさの断片が隠されているように感じました。

実際に学生が片平さん宅へ伺った際にもりんごやお菓子を出していただき、和やかな雰囲気ですごくお話ができました。学生からは「普段の生活では聞けないようないろいろな話が楽しいです。おばあちゃんの知恵袋みたいなお話もたくさん教えてもらいました」という声も聞かれました。

「突き詰めていく面白さがある」

農繁期の人材の確保、地域活性化など、片平さんが普段から考えている問題についてお話を伺い、学生たちからはアイデアや疑問、農業への思いなどをお話しました。その中で、片平洋介さんから出たひと言が「よりいいものを作っていき、突き詰めていく面白さがある」。りんごを自身が生み出した作品と捉え、試行錯誤を繰り返して、より良いものを作るところにも農業の面白さがあると笑顔で語ってくれました。



片平さんから学生たちへの期待！

「このエリアで5軒あったりんご農家は、ここ10年で我が家だけになりました。若い世代の農業への取り組み、この地域とのつながりを生み出すことができたらいいなと考えています。学生の皆さんには、販売においてのインターネットの活用法、経営のやり方など私たちが詳しくない分野でいろいろなアイデアをもらえたらうれしいですね。」

森先生よりごあいさつ

今年度、東北福祉大学森ゼミは、亶理町吉田西部地区の地域活動ならびに同地区でりんご園を営む片平果樹園様に活動の機会を頂きました。地域活動では、地区のお祭りにも参加させて頂きました。亶理のりんご農家は後継者不足が顕著になっていますが、その中でも、海が一望できる果樹園で、仲睦まじく楽しくりんごづくりを行う様子が印象的でした。お忙しいところ、本ゼミの活動にご協力いただき心から感謝申し上げます。

なお、本活動は、令和5年度宮城県パートナーシップづくり助成事業の交付を受けて活動をおこないました。

片平果樹園 片平 洋之 70才

今回、大学生のボランティアという事で11月に葉摘み作業や玉回し等を、2月には剪定した枝拾い作業を体験していただきました。

1つの農作物ができるまでには、いろいろな作業があり、天候によっていろいろと対応する作業があります。

大学生の皆さんが農作業を体験し、日本の食料問題、農業の担い手不足等について考えてもらえれば幸いです。

片平果樹園 片平 洋介 45才

大学生のボランティアを入れるのは初めてだったので少し不安もありましたが父も母も楽しそうにしていたので良かったです。

今後、大学生との交流を通じて農家の経営方法や販売方法や業務内容など若い人でも興味がわくような会社になるように意見交換などができたら嬉しいです。

編集後記

清野 鈴 (ゼミ2年生)

「自分と同世代の人達にもっと農業に興味を持ってもらいたい！ 農業の担い手を増やしたい！」という思いで今年度様々な活動に取り組んできましたが、自分の考えを形にしていこうとの難しさをとても実感した年となりました。まだまだ始まったばかりの取り組みですが、私達の活動で少しでも多くの人に農業の魅力が伝われば良いなと思っています。

大越 想太 (ゼミ2年生)

今回、農家さんの活動を手伝わせてもらうなど様々な体験をすることができ、とても良い経験となりました。この活動を通して自分自身、得るものが沢山あったと感じており、今後の活動に活かしていきたいと思っています。

活動にご協力いただき、貴重な体験をさせていただいた片平果樹園さんありがとうございました。

後藤 慶慈 (ゼミ2年生)

右も左も分からない状態で始まった活動だったため、不安なことも沢山ありましたが、なんとかここまで活動を続けることができて良かったです。



Instagram



YouTube